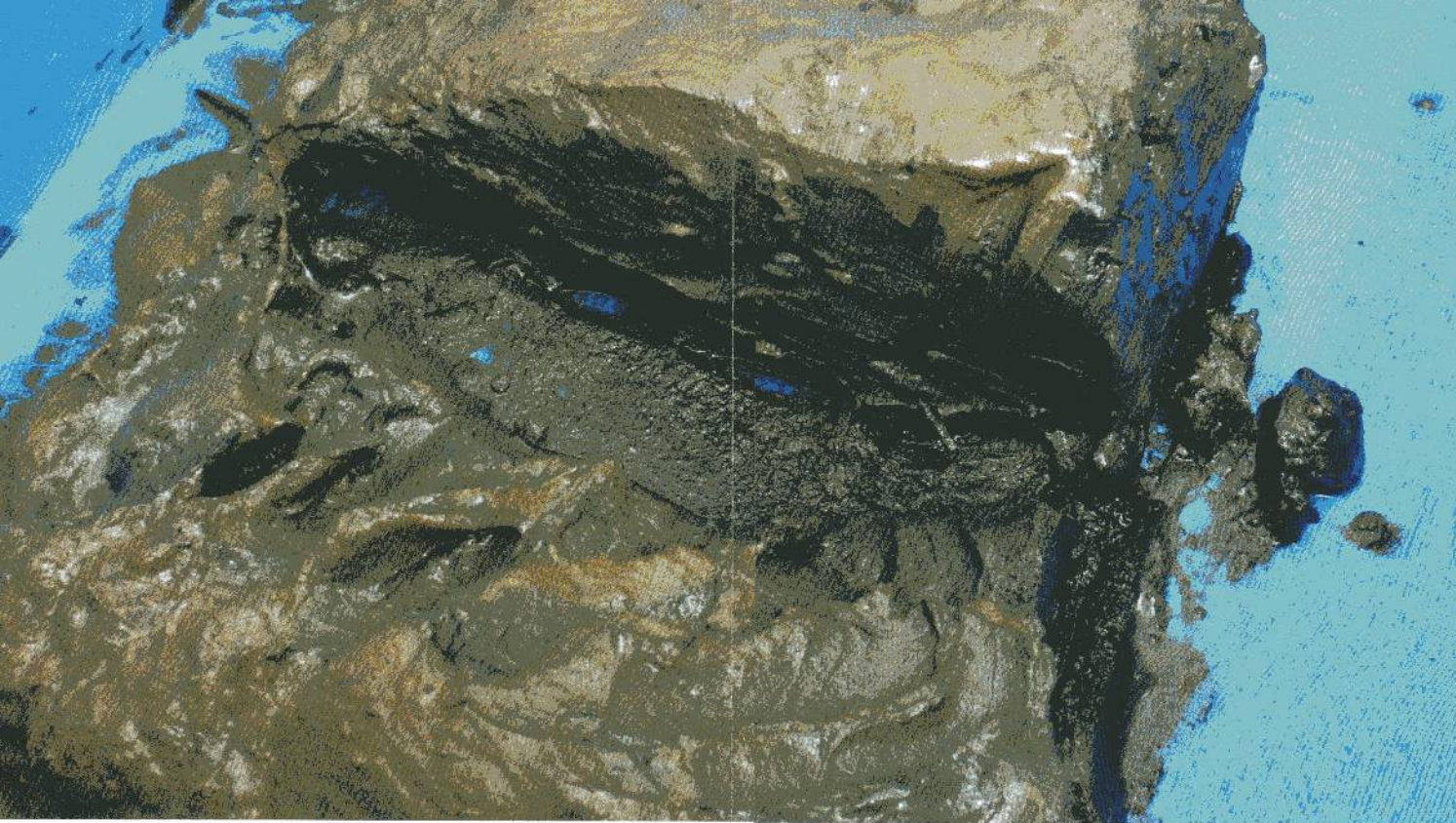




よみがえれ長良川

長良川河口堰の開門をめざして





川と海の恵みを奪った 長良川河口堰

堰閉鎖から16年がたちました。河口堰はアユやサツキマスなど川と海を行き来する魚たちの大きな障害物となりました。

河口堰は、塩水と真水が入り混じる生き物にとって大切な汽水域を遮断し、そこに生きていた多くの生物たちの棲みかと命を奪いました。

河口堰の下流側の川底には写真のようなヘドロが約2メートルの深さで堆積し、そこで行われていた日本でも有数のシジミ漁は大きなダメージを受けました。

堰の閉鎖によって広大なヨシ原はその90%が消滅しました。

河口堰で堰止められた上流側では、潮の干満がなくなり、水面は上がったままとなりました。そのため広大なヨシ原が水没し、90%が消滅しました。

ヨシ原は多くの生き物の棲みかであり、川をきれいにする働きも果たして、流れ込む伊勢湾の生き物に役立っていました。



1996年8月



2010年4月

写真は堰より右岸上流3.5km地点

使うアテのない水を溜める だけの長良川河口堰…

長良川河口堰は、川を堰き止めてその水を工業用水として使うことを最大の目的にして作られた施設です。しかし、現在まで1滴の水も工業用水としては使われていません。買い手のない水の建設費と維持管理費は国民、愛知・三重県民に税金としてそのツケが回されています。買い手がついたのは僅か16%で、知多半島などの住民の上水道に使われています。しかし住民からは「河口堰の水はマズイ」「水源をもとにもどしてほしい」という声が起きています。浄水場では活性炭処理施設を建設して対応せざるを得ない状況になりました。



長良川とともに生きるために

「宝の川だった長良川は、魚の棲まないおぞい川になってしまいました。ぜひ長良川を助けてください」「建設には最後まで反対しましたが中京圏の経済発展のためと言われ、何度も苦しい思いをさせられ、それでも歯をくいしばってやってきました。推進した愛知県や名古屋市が今回は見直すということですが、公益とは何かと問いたい。」

愛知県の設置した「長良川河口堰」を検証する委員会で、長良川の漁師と赤須賀漁協の代表がされた証言は傍聴者に深く重く響きました。私たちはこの度、愛知県長良川河口堰検証専門委員会によってまとめられた報告書を歓迎し、みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

河口堰を開門すれば、魚や貝や鳥たちが喜んで戻ってくるでしょう。

目的を失った河口堰ゲートは開門しましょう。開門すれば、長良川の自然の流れは戻り、潮の満ち引きも復活します。ヘドロに覆われた死の世界はなくなります。きっとヨシ原が復活し魚貝類や鳥たちが喜んで戻ってくるでしょう。

2010年、名古屋市でCOP10(生物多様性条約第10締

約国会議)が開催され、2050年までに「人類が自然と共生する世界を実現する」ための目標と、概ね2020年までに実現する戦略目標を定める「愛知ターゲット」を採択しました。

多くの生き物たちから川と海の恵みを奪った長良川河口堰を開門することは、決議を採択したこの地に生きる私たちの責務です。

▼洪水時、全開された長良川河口堰





●長良川河口堰 所在地 三重県桑名市
 型 式 可動堰
 総延長 661m
 建設費 1,493億円（関連工事費 約2,000億円）
 着 工 1988年 完成1995年



●長良川 流域面積 約1,985km² 流路延長 約166km

発行：長良川市民学習会 <http://dousui.org/>
 〒500-8211 岐阜市日野東7-11-1
 TEL 090-1284-1298

●私たちの運動はみなさんのカンパで成り立っています。
 賛同してくださる方はぜひカンパをお願いします。
 郵便局口座番号：00840-3-158403
 口座名称：長良川市民学習会

発行：2011年12月10日